

「前立腺癌三次元原体照射患者における照射前ホルモン療法の有無による照射期間中の精嚢位置移動の違いに関する検討：後方視的コホート研究」へのご協力をお願い

ー平成20年8月1日～平成23年7月31日までに当科において前立腺癌に対する放射線治療を受けられた方へー

研究機関名	岡山大学		
責任研究者	岡山大学病院 放射線科	医員	脇 隆博
分担研究者	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 腫瘍制御学講座		
	放射線医学分野	教授	金澤 右
	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 病態機構学講座		
	泌尿器病態学分野	教授	公文裕巳
	岡山大学病院 新医療研究開発センター	教授	那須保友
	岡山大学病院 放射線科	助教	勝井邦彰
	岡山大学病院 新医療研究開発センター	特別契約職員助教	三橋利晴

1. 研究の意義と目的

前立腺癌の放射線治療では前立腺や精嚢が大きいほど放射線を照射する範囲が大きくなり、直腸や膀胱の被曝する放射線の量が増加します。

前立腺癌の放射線治療の期間中には周囲臓器（膀胱や直腸）からの影響で前立腺が移動することはこれまでの研究で明らかになってきています。そのような移動する前立腺に対して画像を用いた放射線治療の導入されたため、前立腺に対する照射はより正確になっています。

しかし、精嚢に関しては移動量が前立腺より大きく、さらに、前立腺のような位置合わせが出来ないため、放射線を照射する範囲を設定する際に前立腺より大きい余白範囲（マージン）をとる必要があります。精嚢の位置移動についての研究結果の報告はいくつかありますが、ホルモン療法の有無で精嚢の移動量を比較した研究はありません。

また、放射線治療前にホルモン療法を行うことで前立腺容積が減少することが知られています。もし、前立腺癌に対する放射線治療前にホルモン療法を行うことで精嚢長が短くなったり、精嚢の移動量が少なくなったりすれば、放射線を照射する範囲を小さくし、治療による被曝量低減可能になります。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

平成20年8月1日～平成23年7月31日に前立腺癌に対して放射線治療を行った患者さまのうち、期間中に手術を行っておらず、かつ前立腺内に石灰化を伴っていた患者さま。

当研究は岡山大学で放射線治療を行った患者様のみを対象とした岡山大学単独施設での研究であり、上記の条件に該当する患者さまは、44人いらっしゃいます。

2) 研究期間：

平成25年8月27日～平成25年12月31日

3) 研究方法：

上記1)に該当する患者さまについて、研究者が放射線治療に関して撮影したCT画像から精嚢長や精嚢

の移動量を測定します。また、診療録をもとに患者さまの基本的な情報（年齢など）、前立腺癌の状態やホルモン治療の有無に関する情報を抽出して、ホルモン治療によって、精嚢長や精嚢の移動量に影響が有るのかどうかについてコンピュータを用いて統計学的な解析を行います。

4) 情報の保護：

研究の対象となる個人の人権保護のため、「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、研究を実施いたします。本研究は、過去の情報を診療録などから抽出する研究ですので、患者さまに不利益や危険性が生じることはありません。収集したデータは岡山大学病院 放射線科内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

調査結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。

また、ご自身の情報が研究に使用されることについてご了承頂けない場合には、研究対象としません。平成 25 年 9 月 27 日までに下記の連絡先までお申し出下さい。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さまの不利益が生じることはありません。

5) 結果の開示：

対象となっている方の結果の開示について、ご希望がある場合にはご本人またはご家族（ご本人の同意がある場合）に開示致します。開示を希望される場合は下記までご連絡ください。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 放射線科

氏名：脇 隆博

電話：086-235-7313 ファックス：086-235-7316